

一般質問とは？

皆さんの生活に関わる大切な事柄について、議員が提言も含めて町に考えを聞きます。

今回の一般質問で、あなたの生活に関わる内容はありますか？



16人中11人が登壇

町政を問う！

一般質問

3月5日・6日

YouTubeにて議会映像 配信中！



各議員の記事に掲載の二次元コードを読み込むと、その議員の一般質問の様子を動画でご覧いただけます。ぜひ、ご視聴ください！

CONTENTS

子育て・教育

- ・児童生徒の体力向上と今後の課題について
前田 明弘 P12
- ・特別支援教育に関する推進について
前田 明弘 P12
- ・インクルーシブスポーツイベントの開催について
大川 晃 P12
- ・「切れ目のないこどもまんなか応援サポーターのまち」への取組について
北野 興地 P13
- ・障がいのある子ども土曜・祝日保育利用ができるように
杉下久仁子 P14
- ・本町の学校図書館について
赤川 操恵 P15

健康・福祉

- ・带状疱疹ワクチンの定期化に伴う本町の対応について
大川 晃 P12
- ・おひとりさま（一人暮らしの高齢者）支援について
秋葉富士子 P15
- ・带状疱疹ワクチンについて
秋葉富士子 P15

安全・安心

- ・災害に備えた防災・減災対策の更なる強化を！
間瀬 宗則 P13
- ・東浦町総合防災訓練について
赤川 操恵 P15
- ・持続可能な下水道事業の実現を
山下 享司 P17

くらし

- ・更なる循環型社会の実現に向けて
北野 興地 P13
- ・隣組・コミュニティ組織の在り方について
山田 眞悟 P14
- ・産業まつりについて
秋葉富士子 P15

まちづくり

- ・まちに賑わいと活気を生む取り組みを！
間瀬 宗則 P13
- ・「人口減少問題」の取り組みを伺います
山田 眞悟 P14
- ・「空き家問題」どう対処していくのか伺います
山田 眞悟 P14
- ・東浦町立地適正化計画によるコンパクトなまちづくりに向けて
久松 純志 P16
- ・公共インフラ施設等の安心、安全を
久松 純志 P16

その他

- ・於大生誕500年イベントについて
大川 晃 P12
- ・東浦町での非核・平和宣言30周年また戦後80年における取り組みは
杉下久仁子 P14
- ・さらなるデジタル社会の実現に向けて
森 靖広 P16
- ・カーボンニュートラルの実現に向けた新たな取り組みについて
森 靖広 P16

Q 児童生徒の 体力向上の課題は



まえだ あきひろ
前田 明弘
議員



A 地域のスポーツ環境の整備

Q 全国の小学5年生と中学2年生の全員を対象とする「全国体力テスト」の愛知県の結果は、全国最低基準の状況が続いている。令和6年度の本市の結果は。

A 体力合計点を全国と比較すると、小学校5年生男子は、48・6点と全国より1・4点低く、女子は49・8点

と全国より0・2点低かった。また中学校2年生男子は、51・4点と全国より1・4点高く、女子では、51・5点と全国より1・5点高かった。経年変化を分析してきた「新体力テスト」の結果を見ると、平成30年



度の体力合計点51・6点をピークにその後は、年々低下の傾向にあった。

しかし、令和4年度の46・6点から、5年度が47・2点と上昇に転じ、愛知県の平均を上回る結果になった。また、総合評価でも、AからC評価の生徒の割合は向上している。

Q 体力向上に向けて、児童生徒が取り組むべきことや課題は。

A 地域は、児童生徒が自ら参画できるスポーツ環境の整備が課題。イベント開催や環境整備を進めていきたい。

「特別支援教育の推進

Q 障害のある児童生徒に対しての支援計画等は、どのように行われているか。

A 一人ひとりの教育ニーズを把握し、個別の教育支援計画を作成し、実施している。

特別支援教育こそ、本町の進める個別化・個性化教育の根幹をなすべきものと認識し、推進していく。

Q 於大生誕500年 イベントは



おおかわ あきら
大川 晃
議員



A PRの機会として企画を検討

Q 令和10年の「於大の方生誕500年イベント」に対する考え方は。

A 本町の魅力を町内外に広くPRできる絶好の機会。ゆかりのある自治体と連携し、取り組みを検討。

10年度の於大まつりでは「あなたの夢於大まつりで叶えよう」で集まった意見をもとに、企画を検討中。現在決まっている取り組みは、住民自作の手作りよろいを着用しての於大行列参加。於大の方や東浦町にちなんだ記念曲を作成。資料館での企画展の開催を予定している。

Q 於大の方のミニチュメントと肖像画を作成しては。



▲「愛知県指定」伝通院画像(楞嚴寺蔵)

A 町が制作を依頼する考えはない。町観光協会で於大の方の銅像の建立について検討中。町として協力できることを行う。

「インクルーシブスポーツ」イベント
Q 東浦マラソンに代わるスポーツイベントは。

A ニュースポーツ、アーバンスポーツを取り入れた総合的なスポーツイベントとしたい。

スポーツを始めるきっかけづくりや、町の賑わい創出を目的として実施予定。誰もが参加できるインクルーシブイベントとして考えている。

带状疱疹ワクチン

定期接種化の対応

Q 接種補助事業に対する見解は。

A 定期接種の対象となる時期が2年～5年後となる66歳以上の任意接種対象者は、定期接種と同様に接種機会を提供できるよう検討。定期接種対象外の50歳～64歳の方は、今後とも任意接種の対象とする。

語句
説明

- ①新体力テスト…6歳～79歳までの男女が対象。各年齢層の運動能力等の変化を調べることができる。
②インクルーシブスポーツ…障害の有無や年齢、性別等を問わず、誰もが平等に参加できるスポーツ

Q 高台に 指定福祉避難所^①を



まつおか まほろ
議員



A 新たな適地の選定を進めている

Q 指定福祉避難所は勤労福祉会館が指定されているが、洪水ハザードマップの浸水域にあり、過去に何度も危険性が指摘されている。高台にある公共施設を指定する考えはないか。

A 災害時における要配慮者等の避難生活において、福祉避難所の果たす役割や必要性は大変大きく、勤労福祉会館以外の新たな指定福祉避難所の指定が必要と考えている。

指定福祉避難所の指定に向け、課題の整理や、避難所の指定基準等を踏まえ、適地となる施設の選定作業を現在進めている。



▲現在、指定福祉避難所に指定している勤労福祉会館

Q 協定を締結している11の民間福祉施設について、災害時に自宅での避難生活が困難となった場合、直接避難することができるのか。

A 現時点において直接避難は想定していない。要配慮者の直接避難には、受け入れ場所や対応職員の確保が必要となる。今後、施設関係者等の意見を聞き、検討を進める。

「まちに賑わいと活気を！」

Q 中小・小規模事業者が新たに用地を確保する場合の支援は。

A 具体的な操業予定時期や希望面積、業種、事業内容、事業者ニーズを詳細に聞き、条件に合う適地を職員と一緒に考え相談に応じている。

Q 令和7年度の産業まつりは。

A 7年度以降の産業まつりは、1日開催のメリットを最大限に活かし、内容について工夫を凝らしていく。7年度は、新たに開催するスポーツイベントを連続する日に開催する。

Q 更なる 循環型社会実現を



きたの こうじ
議員



A 現施策で循環型社会を目指す

Q リサイクル率向上のため、ペットボトルキャップを個別回収・リサイクルした売却益で、世界の子どもたちのワクチン接種へつなげる「エコキャップ運動」に参加を。

A 町内小中学校、団体等でエコキャップ運動が行われている。本町も公共施設を回収場所として提供し、社会貢献・人道支援を行っている。

新たな分別品目としてペットボトルキャップを取り扱えば、分別が分かりにくくなり、収集費用の負担が懸念される。

これまでと同様に、小中学校や団体等の自主的な活動としてのエコキャップ運動を支援していく。



▲ペットボトルキャップ回収状況
(森岡コミュニティセンター)

Q 回収されたペットボトルキャップ搬送の手段・方法として、コミュニティセンターの配置職員を活用しては。

A 職員が回収する以外の方法も考えられるため、団体等と相談し、最善の方法を検討したい。

「こどもまんなか^②」への取り組み

Q 小学校の金管バンド廃止後の対応は。

A いきいき生涯学習ネットに登録の子どもの吹奏楽団や町主催の子ども吹奏楽教室講座を紹介している。

Q 子どもへの教育的要素の強いボランティア団体への公民館使用料の免除を。

A 令和7年4月1日以降は、公共的団体、社会教育関係団体等が地域の活性化、健康増進等の事業を行う場合には、申請により施設使用料が100%減免になり得る。

語句
説明

①指定福祉避難所…高齢者や障がい者、乳児等の避難所での生活に特別な配慮を必要とする人のための避難所

②こどもまんなか…すべての子どもや若者たちが幸せに暮らせるように、常に子どもや若者の今とこれからにとって最もよいことは何かを考え、社会全体で支えていくこと

Q 人口減少問題 どう取り組むか



やまだ しんご
山田 眞悟
議員



A 「住みやすさ」を向上させる

Q 人口減少への対応と過去・将来の人口を踏まえた現状認識は。

A 令和2年国勢調査では、前回調査から本町の人口は増加。多くの方から「住みたいまち」として選んでいただいていると認識している。

しかし、長期的には人口減少は避けられない。スピードを緩やかにするため「東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿った施策に取り組んでいる。

の縮小。また、空き家の増加や地域活動の縮小、医療・介護のサービス供給不足等の課題がある。

これらに対応するため、子育てや教育をはじめとする「住みやすさ」を向上させる取り組みを積み上げて、「住みたい・住み続けたい」町として選んでいただけるよう取り組んでいきたい。

一 空き家問題

Q 空き家問題どう対処するのか。

A 平成31年に空き家等対策計画を策定して6年がたつ。27年度の調査では、空き家の総数は310戸。令和4年度の再調査では、前回調査から約3割増加していた。

空き家等対策の取り組みとしては、倒壊や建築材等飛散の恐れがある空き家には解体工事の費用補助をしている。また、空家等の緊急安全措置条例を制定していく予定でいる。

Q 人口減少社会の将来の課題は。
A 就業人口の減少に伴う経済規模

【その他の質問】隣組・コミュニティ組織の在り方について

Q 障がい児の 土曜祝日保育利用を



すぎした くにこ
杉下 久仁子
議員



A 子どもに特性があっても支援

Q 町立保育園の土曜・祝日保育を利用できない理由は。

A 療育①が必要な子どもの受け入れには、施設環境の整備や、療育が提供できる保育士の確保、子どもの特性に応じた対応の仕方等、課題や配慮すべきことが多くある。

Q なかよし学園を利用する子や障害のある子も受け入れられるよう求めるが、見解は。

A 町立保育園と児童発達支援事業所である「なかよし学園」では、目的や提供するサービス内容が異なる。

しかし、仕事と育児を両立するための環境整備は、子どもに特性があっても支援していくべきと考える。より良い選択ができるよう、公立と民間事業所の特色や機能を、お互いが補完し合う環境づくりが重要。

一 非核・平和宣言30周年と戦後80年

Q 東浦町は1995年10月に非核・平和宣言を行い、今年で30年たつ。また長崎・広島での被爆と



▲2024年の非核・平和パネル展(役場ロビー)

戦後80年という節目でもある。例年行っている非核・平和パネル展の充実や資料館での企画展の時期や内容は。
A 例年と同じ8月に役場と中央図書館のパネル展で、特別に広島平和記念資料館から「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル」・「熱線により溶けた瓦」を借用等、内容の充実を図っていく。また、郷土資料館では、7月から8月にかけて「企画展」を開催する予定。人々が戦禍をどう生きたのかを、当時の文書、写真等の資料を展示して紹介する予定。

Q 終活相談・ 終活情報登録を



あきば ふじこ
秋葉富士子
議員



A わたしのこれからノートを活用

Q おひとりさま（一人暮らしの高齢者）等の支援で終活相談の実施、終活情報を事前に登録する取り組みを提案するが、見解は。

A 本町では「わたしのこれからノート」を作成し、配布している。このノートは「もしものとき」に備えて、医療や介護、葬儀等に関する考え方や思いを記入することができる。これを活用し、早い段階で終活を意識してもらい、相談につなげられるよう周知を図っていききたい。

「産業まつり」

Q 子どもたちが本町の農・商・工業に興味を持てるようなイベント



▲令和6年度の産業まつりのチラシ

の開催を提案するが、見解は。

A 産業まつりは町内外の子どもたちが本町の産業に触れることのできる絶好の機会と捉えている。

産業まつりの目的に沿った「子ども向けイベント」について、出展者の協力を仰ぎながら、さらなる充実を図っていききたい。

「带状疱疹ワクチン」

Q 令和7年4月1日からの带状疱疹ワクチン接種費用助成の内容は。

A 対象者は7年度中に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳以上になる方で、すでに接種した方は対象にならない。

本町としては66歳以上も定期接種と同様に接種できるよう検討している。自己負担額は「生ワクチンが3千円」、2回接種が必要な「不活化ワクチンが1回7千円」の予定。なお、50歳から64歳までの方は今後も任意接種の対象とする。

Q 司書教諭①の 配置状況は



あかがわ みさえ
赤川 操恵
議員



A 全小中学校に配置されている

Q 学校図書館を充実させる考えは。

A 学校図書館法の目的に沿って運営を行うとともに、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能を果たせるよう、環境を整備。

今後も児童生徒が本を好きになり、教職員は授業等で活用しやすい学校図書館であり続けられるよう努める。

Q 司書教諭の配置状況と児童生徒一人当たりの貸し出し冊数は。

A 司書教諭は全小中学校に配置。

令和6年4月から7年1月末まで、藤江小学校26・4冊、生路小学校18・9冊、片葩小学校は33・3冊、石浜西小



▲地域の方にも利用されてきた
藤江小学校図書室棟

学校21・5冊、緒川小学校24・1冊、卯ノ里小学校29・1冊、森岡小学校23・5冊、東浦中学校1・3冊、北部中学校2・3冊、西部中学校3・9冊。

Q 新聞は複数配備されているか。

A 藤江小学校、緒川小学校、卯ノ里小学校、森岡小学校で小学生新聞を1部配備しているが、複数配備に至っていない。代替手段も含め各校で新聞の利活用を検討していく。

「知多管内初のペット同行避難訓練」

Q 訓練の概要は。

A 森岡小学校のプールで実施。飼い主10人、犬8頭、猫5匹が参加。避難所開設方法を記載した「ミッシンカード」や設営に最低限必要な物品をセットした「スターターキット」を利用し、実際に参加者がペット避難所の開設を行った。

【その他の質問】アマチュア防災無線の活用について

語句
説明

①司書教諭…学校図書館の専門的職務を担う教員で、読書教育の専門家

Q 市街化調整区域内 に住宅地を



ひさまつ ただし
久松 純志
議員



A 居住誘導区域で人口密度を維持

Q 定住人口確保のため市街化調整区域を住宅地に活用する考えは。

A 一定エリアで人口密度を維持するとともに、現在の市街化区域の無秩序な拡大を避ける必要から、市街化区域内にある居住誘導区域に誘導

Q ウェルネスバレー構想への参画や次世代成長産業支援の考えは。

A 地域の特性と資源を最大限に活用し、新たな価値を創造するものであり、他地域との差別化が図られた本町の特徴ある取り組みとして支援している。

Q 市街化調整区域にある用地を産業用地としての活用と専門部署や人員配置の考えは。

A 企業の意向を確認しながら活用を検討。令和7年度の機構改革で、効率的・効果的な組織として必要となる部署、人員を配置。産業用地に関する部署は、地域創造部、まちづくり部が中心になる。

公共インフラ施設等の 安心・安全を

Q 既設道路の点検、診断等、維持管理、修繕、更新の実施方法は。

A 町道総延長約400km全域を道路パトロールによる日常点検と路面性状基礎調査による診断、緊急性があれば補修等に対応。

Q 電子回覧板^①の 導入を



もり やすひろ
森 靖広
議員



A 地区と協議を重ねたい

Q 自治会や町内会に電子回覧板の導入の検討を提案する。

A 電子回覧板は、コミュニティの運営において非常に有用なツールのひとつと考えている。導入について各地区と協議を重ねていきたい。

Q 令和6年10月1日から町公式「LINE」がリニューアルされたが、機能拡充による総合的な評価は。

A 機能拡充後は、登録者が求める情報を選択することができ機能が備わったため、今まで以上に積極的に情報配信を行えることになった。

全般的に好意的な意見が多く、機能拡充による住民の利便性向上は図られているが、利便性が向上した点が広く伝わらず、登録者数が思うように伸びていないと評価している。

CN^②実現に向けた 新たな取り組みは

Q J-クレジット^③制度の活用で、持続可能なまちづくりを実現できると考えるが、見解は。



A 制度を活用することにより、持続可能なまちづくりの実現につなげていきたいと考えている。

現在、「第3次東浦町の環境を守る基本計画」の中間見直しを進めている。国や県の計画見直しに合わせ、本町でも令和12年度の温室効果ガス50%削減という新たな目標設定を予定。

目標達成のため、取り組みを更に強化し、新たな取り組みとして「J-クレジット制度の活用を位置づけ、今後、積極的に推進していきたい。

①電子回覧板…回覧板を電子化したもので、自治体が電子機器上に必要な情報をアップし、住民がネットワーク上で情報を得ることができる。

②CN(カーボンニュートラル)…温室効果ガスの排出量が全体としてゼロになっている状態 ③J-クレジット…CO₂等の排出削減量やCO₂の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。自らが利用しない削減量を売却して収入を得たり、足りない削減量を外部から調達したりできる。



▲東浦町汚水マンホール蓋

Q 町流域下水道^① 事故発生の影響は

やました しょうじ
町長

A 使用者の3万8千人に影響

Q 埼玉県八潮市のような道路陥没事故が本町の流域下水道で発生した場合の影響は。

A 森岡・緒川地区約1万3千人、緒川新田地区約6千人、石浜・生路・藤江地区約1万9千人への下水道の使用自粛等が考えられる。

Q 町の污水处理の経路は。また県管理の流域下水道の管の延長、大きさ、深さは。

A 各家庭等の汚水は、下水道管を経由し、県管理の流域下水道管に接続し、浄化センターで処理される。緒川・森岡地区から流域下水道幹

線に流入した汚水は、国道366号バイパスを北上。石ヶ瀬川、境川を下越して、刈谷市境川浄化センターで処理。全長約6km、管径70cm、深さ5m、13m程度。

緒川新田地区の汚水は、鎌池川沿いの流域下水道幹線に接続。県道名古屋半田線を南下し、半田市衣浦西部浄化センターで処理。全長約12km、管径60cm、220cm、深さ3m、15m程度。

石浜・生路・藤江地区の汚水は、366号バイパス沿いの流域下水道幹線に接続され南下し、半田市衣浦西部浄化センターで処理。全長約14km、管径80cm、220cm、深さ4m、16m程度。

Q 町管理の下水道施設点検の頻度と内容は。

A 腐食の恐れが大きい箇所、交通量の多い国道・県道内36箇所を5年に1回点検。操作棒の先にカメラとライトを付けマンホール内に挿入し、ひび割れ等を映像で確認している。



傍聴席の耳と目 傍聴された方にアンケート

傍聴された方にアンケート用紙を配付し、ご意見・ご感想を聞きました。今定例会では42人に回答いただきました。一部を要約して紹介します。

町長の答弁が少ないように思う。

行政の優先順位は、住民の①生命②財産③生活④文化教育と考える。④が多く、必要性を十分に調整し、効果的・具体的な議論を。

定例会の日程、一般質問通告がホームページにアップされたら、わかりやすく案内してほしい。

議会だよりは単なる広報紙ではなく、議会のレベルアップのためのものでもあると思う。

ぜひ傍聴いただきアンケートにご協力ください！

いただいたご意見・ご感想は、議会事務局だけでなく、議員と町当局にも共有しております！ぜひ傍聴いただきアンケートにご参加ください！次の定例会日程は裏表紙でご確認ください！



12/15
㊥

東浦マラソン

最後の大会となった「第50回東浦マラソン」で議長があいさつを行いました。このラストランには町内外から多くのみなさんが参加され、盛り上がりました。

1/21
㊤

ようこそ東浦町へ！東郷町議会が視察来庁



議長が歓迎あいさつし、職員が「イオンモール東浦での行政サービス」について丁寧に説明しました。

議会トピックス

GIKAI TOPICS

定例会だけじゃない！
議会の動き

語句
説明

①流域下水道…2つ以上の市町村の区域における下水を処理するための下水道